とが出来た。

深仙宿灌 頂堂の調査を支援

◇参加者 ◇実施日 梶野照雄、 10月7日 村吉光夫、 火 瀧本昭太郎 小雨

- 奈良文化財研究所 吉川 聡
- 奈良文化財研究所 (飛鳥資料館) 清 野 陽
- 京都国立博物館 石田 由紀子
- 京都国立博物館 末兼

十津川 ,村教育委員会事務局教育課

- 大向 翔太
- 大杉 綾花

1 0 名

して、 具が切れるハプニングがあったが、ザックに固定して何とか運ぶこ 屋谷登山道の分岐で休憩。脚立を括っていた背負子の肩ベルトの金 ろを見ながらだったが、遅れる人もなく順調に歩を進めた。不動木 午前8時過ぎに登り始める。最後尾を村吉さんと瀧本さんにお願い 気が悪いにもかかわらず、 既に着い 午前7時半過ぎに登山口に着く。奈良文化財研究所の2人以外は ゆっくりと歩いた。初めて顔を合わせるメンバーなので、 ていた。我々以外にも登山者の車が2台あり、 相変わらず人気がある山だ。 全員が揃い 平日でお天 後



背負子が壊れる



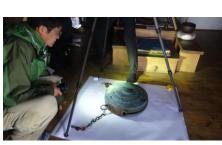


深仙宿に着く

古田の森でも休憩し千丈平に着く。 を見込んでいたが、 登山口を出発 休憩も含めて2時間40分で到着した。 登山口から深仙宿まで、3時間



鰐口を降ろす

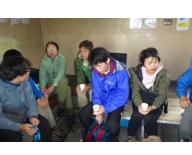


鰐口と吊り灯篭の調査



ら始まり下に降ろしてお堂内で調査が始まった。 前にすると研究者の顔に変わって、頭上の鰐口の写真を撮ることか で延長は必要なかった。我々3人を除いた7人の方々は調査 ために延長する準備もしてきたが、立ててみると何とか届 仙宿に着き小屋からハシゴを灌頂堂へ運ぶ。ハシゴが短か 立対象を いたの つた時







鰐口を元に戻す

コー ヒーを頂く

本日の参加者

千丈平で

お堂の 大きな吊り灯篭も3人で移動し、全体の写真を撮り、 ると、 る」と言ったが、鏡も持ってきたようだ。鰐口を調べた研究者によ 堂内の大きな吊り灯篭を調べていた一人が「裏側にも文字が見え な開閉が可能だ。 かりで30㎝ほどを動かした。北側の一枚は以前と同様、スムーズ 録していた。調査が終わり降ろしていた鰐口を元の位置に戻した。 の物にあった年号を彫ったのではないか、と推測できるらしい。 彫られた年号と制作様式が異なるので、後世に作られたもの 扉は南側の一枚が建物の変形によって簡単に開かず、3人が 7人の皆さんは昼食も取らず調査にかかり切りだ。 寸法も計測・

行動タイム

暖かいコーヒー は早くからガスバーナーを点けて、少し暖かくなっていた。食後は 人の皆さんを小屋に誘導して食事していただく。小屋では村吉さん 2時間20分に及ぶ調 ので、この配慮には頭が下がる。 で2リッターのペットボトルを担いできたそうだ。雨で気温も低 も淹れていただいた。 査が終わったのは午後1時20分だった。 香精水が涸れていると困るの 7







を含めて2時間25分だった。 不動木屋谷登山道分岐で休み、 小屋前で集合写真を撮って深仙宿を後にした。千丈平、 登山口に無事下山した。下りは (記 ; 梶 野 全員無事下山

古田の森

道分岐→16:21 太尾登山 森→10:50 深仙宿 13:55→14:32 千丈平→15:46 不動木屋谷登山 太尾登山口 08:09→08:44 不動木屋谷登山道分岐→09:33

 \mathcal{O}